

発行•編集 いぶき福祉会後援会

〒502-0907 岐阜市島新町5番9号 TEL. 0 5 8 - 2 3 3 - 7 4 4 5 FAX. 0 5 8 - 2 3 2 - 9 1 4 0 E-mail.ibuki@alto.ocn.ne.jp (1部100円)

2017年7月20日発行

いぶきまつり、今年も大盛況のうちに閉幕。 元気いっぱい笑顔いっぱい楽しみました。



(15) 初任者研修報告

いぶきまつり報告 ぶき仲間のすがた

後援会総会と市民公開講座報告



IBUA 2017

暑さをはっきりと感じるようになり、みずみずしい緑が一面に広がる時期になって まいりました。いぶきではみんなが心地よい汗をかきながら仕事や取り組みをしてい ます。この間、いぶきふれあいまつりや後援会総会など後援会で大切にしてきた行事 がたくさんありましたので、今号は盛りだくさんの内容でお知らせいたします。

Summer Vol.191

新後援会会長挨拶



_{新後援会会長} 横幕 嘉之

接会長は2ヶ | 屋

屋へ行きましたが、突然お前が後援会長に最適なので、どうしても会長を受けてほしいとの話でした。とてもびっくりしました。私はいぶきの中ました。私はいぶきの中では35年というきのいる。

に共同作業所をつくる 特別支援学校)を卒業し でも、卒業後の進路を保 でも、卒業後の進路を保

業の話かと思い、ワクワ迎えた私は、次年度の就

出されました。65歳を前、突然会議室に呼び

したが、総会の10日程

クドキドキの思いで部

会"を立ち上げ、小規模作業所をつくる活動をはじめました。多くの保護者さん、市民の方々の賛同を得て、いぶき共同作業所ができあがりました。 障害者が一人の人格として認知してもらうには、 法人施設をつくるしかないとの声があがりました。 する まる によって、 1955年法人施設ができあがりました。 できあがりました。

と 2 2 年経った今では、 ありがたいことに当たり がの様にあるいぶきの各 ができたことをよく知っ できたことをよく知っ できたことをよく知っ でも、親さんたちや支 ができたことをよく知っ を受けなければ誰がなる を受けなければ誰がなる を受けなければ誰がなる れを受けざるを得なかっれを受けざるを得なかっ

思われます。極端な表現番切り捨てられやすいとくなっています。福祉は一今、福祉の分野は苦し

をすれば、自ら訴えられない障害者は財政に余裕ない障害者は財政に余裕があって、ほどこしを得があって、ほどこしを得があって。

いるされれ会を利用しています。また、年々年をとっていきます。福祉会でとっていきます。福祉会でとっていきます。福祉会でとっていきます。福祉会では受け入れられる施設もは受け入れられる施設もできる。障害者のニーズに合っす。障害者のニーズに合った施策も求められています。

> のお願い 後援会員継続 いぶき福祉会

社会後援会にご理解社会後援会にご理解社会後援会にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。 皆さまのご支援が、いぶきの仲間の豊かな生活を支える力になっていきます。 ぜひ、今年度も1人でも多くの方と一様でも多くの方と一様に後援会の活動を超して、いぶきの仲間の生活を支える力になっていきます。

会費更新の振込用 にきました。どうぞ にきました。どうぞ がきました。どうぞ

シリーズ

もに治ります。」と、言 側に曲がっています。よ する際に医者から「おた彩香は、産院を退院 ます。今思えば、それは われたことを覚えてい くあることで時間とと 屈だったので、足が内 母さんのお腹の中が窮 もとして金沢で産まれ 私たちの最初の子ど



い病院で脳性麻痺と診 たのでしょう。 すでに麻痺の症状だつ やがてその成長を疑

護学校(現 県立中濃特

高校まで当時の中濃養 彩香は、小学校から



願っています。

職員の皆様には、日頃

り返り反省しています。 と言えば、仕事を言い 思っています。一方で私 る限りのことをしたと に通ったり、施設に近い 断されてからは、眠って パであったと当時を振 訳に全くダメな新米パ 家に引っ越したり、でき えています。大阪の病院 東奔西走したことを覚 新米ママは必死になって でも呼びさまそうと、 いる彩香の能力を少し

> 濃養護学校に通わせた中に住んでいながら、中もらいました。岐阜の町 張ったことと思っていま と彩香もずいぶん、頑 中濃まで通ったものだ とでした。よく十二年も 為にと思って決めたこ ことも、少しでも彩香の 別支援学校)に通わせて

外の方と過ごし、自立に も多くの時間を家族以 で「いぶき」に通所させ ぶきでの生活で少しで います。親としては、い ていただき今日に至って 卒業後は、おかげ様



商売を営んでいます。 ようで、今でも柳ケ瀬で 生きの秘訣となっている を超えた私の両親と五 彩香とのかかわりが長 す。高齢の両親も日頃の 香の弟を除いて、八十歳 として独り立ちした彩 謝お礼申し上げます。 とをこの場を借りて感 守っていただいているこ ともに、彩香を暖かく見 人で一緒に暮らしていま 今、私たちは社会人

彩香の二人で、夕食後の 最近ではその祖母と



ることをお詫びすると ご迷惑を沢山かけてい つながってくれればと

苦労はあると思います これからもそれなりに ウォーキングが日課と ように願うばかりです。 く健康な日々を送れる 心に、家族みんなが末永 が、私たちは彩香を中 なっています。

増田 陽

市民公開講座報告後援会総会・

民公開講座が開催され福祉会後援会総会と市7月2日(日)いぶき



ました。今年は、初めて メディアコスモスのかん り時半~11時が総会、 り時半~11時が総会、 がえるスタジオで、前半 がえるスタジオで、前半 がえるスタジオで、前半

ました。一般会員の目標らに上回る成果があり

,000名まであと

●総会報告

総会では、22名の参加

近年、会員拡大を全体で

きました。

100名近くまで近づ

2017年度の活動方 いう2015年度をさ 団体会員は15団体(24 889名(新規71名) 組みました。一般会員は 箇所設置を目標に取り 円)30団体、募金ビン50 員(一口10,000 員(一口2,000円) 2016年度は、一般会 針についての審議と議決 年 がありました。2016 口)募金ビンは45箇所と なされ 度の活動 000名、団体会 ま 報告 した。 ع

とげ動合たもきるの

もいただきました。後援 されるからこそ、後援会 また、厳しい時期が予想 取り組んでいきます。 き の成果です。今年度も引 会員の方の日頃の活動 実施しているエピソード なところで会員拡大を できて、会場からも身近 字もあと一息のところま ています。会員拡大の数 にない大きな数字となっ の新規会員の数は例年 なかったもののここ最近 きました。目標には届か 設定をして活動をして 取り組めるように目標 続き一般 ,000名を目標に 会



一、 のもと役員人事が決まりました。会長は高橋 なさんが退任され、新 たに横幕嘉行さんが就 任しました。(会長の挨 がは紙面2ページに掲

高橋会長は、重要事項の決済だけでなく、お忙しい中にも関わらず何度もいぶきにお越しいただき、私たちの悩みにただき、私たちの悩みに後度となく相談に乗っていただき、その都度優しく受け止めていだきもました。本当にありがとうございました。新しとうございました。新しい会長のもと改めて会の皆様と取り組んで

学習会報告

いいたします。

総会の後は、自然報培パーティー代表理事培パーティー代表理「みんて、市民公開講座「みんな一芸の人になる。みんな一芸の人になる。みんな一芸の人になる。みんな一芸の人になる。ようの講座は、農業をしている方、特別支援学校の先生、障がい者の保護者など後援会員以外での先生、障がい者の保証、

皆様改めてご協力お願いきたいと思っています。



換がなされました。実

も活発な質疑、意見交

がひきこまれ、

、会場から

の素晴らしさと明るく践の内容を聞いて農業

前

向きな展望から、仲

先ず、はじめにいぶき福祉会の4名の仲間たちの活動紹介が行われ、 その後、佐伯さんの講演 その後、佐伯さんの講演 が行われました。いぶき が行われました。いぶき が行われました。いぶき の紹介4つのグループ から動画やスライドで 実際の仲間たちが働い ている姿が紹介されま した。農業・染め・紙漉 きなどの作業で、苦労し ながらもそれを仲間も ながらもそれを仲間も ながらもそれを仲間も ながらもそれを仲間も ながらもそれを仲間も

2017年度

会場は満員になりまし

していただきました。約にも様々な方々に参加

した。

わず笑顔になるもので

間と私たちの大きな可

能性を感じることがで

100名の参加があり、

佐伯さんは、脳性まひの今回講演をお願いした

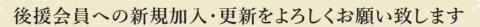
きました。

障がいのある三つ子の お子さんの父で、地元愛 お子さんの父で、地元愛 が設をはじめ、そこから 自然栽培の農業に取り 相み、全国のネットワー クを作られた方です。と ても気さくにかつ情熱

> を受え事務局長 市民公開講座を開催す るのは5年ぶりとなり ました。地域の方々とと まに学ぶとても有意義 もに学ぶとても有意義

後援会事務局長





[振込先] 郵便振替 00840=3=91146

加入者名いぶき福祉会後援会

[年会費] 一般会員 一口 2,000円

団体会員 一口 10,000円

[お問合わせ] いぶき福祉会後援会事務局

TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140 E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp(タイトルに後援会員と入れて下さい)

オンラインでの入金もできるようになりました。

下記のアドレスからご利用いただけます。

いぶき福祉会canpan決済 http://kessai.canpan.info/org/ibuki/

※ J R 岐阜駅の「ねこの約束」でも手続きしていただけます



開催 いぶきふれあいまつり しまし た。 を

方が参加されました。 も合わせて約2千人の ある方、そして来場者 方々、いぶきに関係の る岐阜市立島小学校の 毎年お世話になって されました。 いまつりが盛大に開 に第26回いぶきふれあ (庭を借りて地域の 今年も5月 14 日日日 催



の開 ウンド状況の中、仲間 ぶきまつりが開始! 風 たのか、絶好のまつり る仲間の願いが通じ つりを心待ちにしてい で心配しましたが、ま 司 日 和でした。心地よい 会は今年も浅井彰 が吹く最高のグラ まつり前日は 会宣言により 大 雨

子さんが務めて下さっ

準備してくれて、子ど ゴルフというゲームを

FC岐阜」はサッカ

1

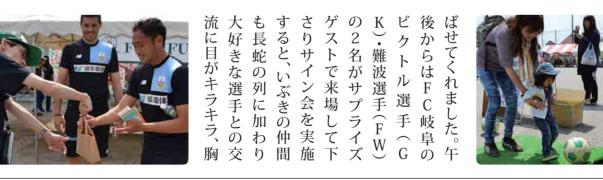
も達や仲間を中心に喜

てきました。一年に一



こ」・「FC岐阜」と新た え今年から「ぽこあぽ きそば・カレーライス・ れました。 に2団体が出店してく 頂いている9団体に加 毎年外部から出店して 賑 交流ゲーム・陶器等)が に進行して頂きました。 て、いぶきまつりを円滑 わいを見せました。 会場では、模擬店(焼







た。 を高鳴らせていま



と順調に進みました。 間の主張、仲間の踊り その流れに乗って仲 いに盛り上げてくれ 歌や踊りで会場を大 てくれている団体 るように準備を進 さんと一緒に楽し を運んでくれたお 始まり、 ニングの吹奏楽から ステージでは いぶきの仲間エピソード まつりに向けて足 毎年参加し オー が プ ら、笑顔を心掛けて 力して支えられな 当日のボランティアと



合ってたくさん考えま がら、アイデアを出 も悩みつつも楽しみな でいこうかと、私たち キ」を何処に盛り込ん えながら、ゲームの 今までの内容を踏ま ムの担当になりました。 んでもらう交流ゲー ベントです。今年は地 回の福祉会の大きなイ わくわく」や「ドキド の子ども達に楽し

> 然な笑顔にみんなが さな子のしぐさに こか緊張しつつも、 盛 いぶきまつりは仲間 なってきました。 もばっちりでした。 店の呼び込みやゲー きました。やっぱりど されながら、次第に自 ムの応援、道具渡 り上がることが 小 L で



自 す。 を多くの方にアピー つ ルする場でもあり なく、会場に来て下さ にとって楽しむだけ た来場者の皆様 分達が作る授産品 暑い中、汗をか に Ć

> 場を設け、改めて誰も 設全体で話し合いの やまゆり園 皆の姿がかっこよく ぶきではこの間に施 ようとしています。い から約1 もあり、逞しくもあり いて呼び込みをする Ш ました。 とても誇らしく思え 相最 模原市 後に昨年 年が経 間での事件 の津久井 の神奈 過し



が安心して豊かに暮

らすことができる「地

もこのかけがえのない ばとても成り立たな の協力者がいなけれ ティアの方とたくさん 取り組みです。今後



出

す姿や会場内を歩

がらも懸

命 に

声 を

て保護者の方、ボラン がり・協力・連携そし は地域の皆様との繋 学んできました。この 域づくり」の大切さを いぶきふれあいまつり

どんどんと」広がって をつなぎながら夢が この街で暮らすこと 縁の の喜び」を共感し「心 がら、「仲間 いけばと思います。 いぶき 力を大事に と一緒に L な

古田·山 ・伊 藤

たくさんの ボランティアの皆さん

がき 仲間のすがた

重なる入院をした昨年は、 そんな中、転倒によって度 や社会性が広がりました。 団の中で心を寄せられる で、こらぼを中心とした集 し、経験を積み重ねる中 が難しい人でした。しか 強く、みんなと楽しむこと 感から、拒否やこだわりが 験が少なかったため不安 間在宅生活で外にでる経 居し3年目を迎えていま 人が増えていき、生活経験 1年目で、パストラルに入 。利用するまでは、 鷲見さんは、今年で利用

学びました。

ましたが、ご家族と協力し さんの手を握り付き添い できるようにと常に鷲見 病院も完全看護が難し ではありませんでした。拒 落ち着いて過ごせる環境 病室は、鷲見さんにとって がれ、見知らぬ人ばかりの 滴や多くの医療機器に繋 がありました。しかし、点 ど重篤で、安静にする必要 集中治療室でした。それほ く、行動を抑制するために ても 2時間の対応は難し ないように、少しでも安心 められました。点滴を抜か く、2時間の付き添いを求 否が強い鷲見さんに対し、 一回目の入院の部屋は

拘束着や鎮静剤を使用せざるをえませんでした。病状から考えると、本人も本当は横になって休みたかったのはと思いますが、点滴を抜いたり、ベッドから出ようとしたりとなんとか逃れようとする姿からは、鷲見さんの心の辛さが伝わってきました。そのため、慣れたところで過ごす方が良いだろう

日中は私たちが付き添いと通院にきりかえて様子をと通院にきりかえて様子をしないうちに転倒し再入院しないうちに転倒し再入院となり水頭症と診断されとなり水頭症と診断された。1回目の反省点を踏また。1回目の反省点を踏まるて、少しでも恐怖心、不安感を取り除いてもらおうと

し、その際に、鷲見さんのことを理解してもらえることを理解してもらえるように、看護師やPTの先生に本人の人柄や興味、好きな事、普段の様子などを伝えました。鷲見さんどを伝えました。鷲見さんが、呼び名が『鷲見さん』から『哲郎さん』に変わったら『哲郎さん』に変わったら『哲郎さん』に変わったら『哲郎さん』に変わったら『哲郎さん』に変わったら『哲郎さん』に変わった。

変化しました。鷲 見さん自身も恐 怖心、不安感がな くなり、医療者に も笑顔を見せ、治

て拒否すること

が減っていきました。その ため、2回目の入院中はほ とんど抑制されることが く自由に過ごすことがで き治療に専念することが できました。 できました。

ました。散歩、食事、トイ体的な機能低下がみられわり、不安感や不信感、身

した。はじめは散歩時に、

の気持ちを大切にしてい ざしているのではないの が思うように動かないこ さんは身体的な変化や体 の職員に意見をもらい考 多く、以前より笑顔が見 は無理に誘わず鷲見さん 先にして、拒否があった時 を得てもらうことを最優 私たちにはありませんで ちが強くなり鷲見さんの づいてほしいと願う気持 らいました。振り返ってみ のではないかと意見をも が持てば、拒否がなくなる えてくれる安心感を本人 たことに対して周りが支 ちを受け止め、できなかっ か。私たちが不安な気持 とに喪失感があり、心を閉 えました。その中で、鷲見 られなくなりました。支援 くように支援を見直しま した。鷲見さんに安心感 気持ちに寄り添う余裕が 員も戸惑い、以前の姿に近 ると、鷲見さんの変化に職 に行き詰まり、他グループ レなどに拒否することが

関わりの中で、少しずつ気 さすったりしてコミュニ どさから「今は動きたくな ごい」などの声掛けに笑顔 ことで少しずつ歩く距離 ら歩く際には腰がひけて 体のしんどさや恐怖心か くれるようになりました。 になり、私達の手をとって 持ちを許してくれるよう ケーションをとりました。 顔を近づけてみたり、体を 間を過ごしました。また 鷲見さん自身、体のしん 怒った表情で手を引き込 ルの職員とも話し合い、そ る不調の原因をパストラ みえました。また、あらゆ が見られ、体を動かすこと が伸び、「カッコイイ」「す いましたが、毎日歩行する おいたり、そばで一緒に時 無理に誘わず少し時間を と考え、拒否があった時は う思いがあるのではないか い」、「ゆっくりしたい」とい いかけても、「うーん」と に自信がついてきたように んで拒否をしていました。 「行こう」と手をだして誘

た。
が、笑顔が増えていきましか、笑顔が増えていきましか、笑顔が増えていきまるのの都度対応しました。体が

早く気付き、医療者に代 の変化から本人の辛さに とって、私達が表情や様子 ら発信できない仲間に どい」ということを自分か のように「痛い」「体がしん 安心できる生活を守って 間の変化に敏感に気付き と思います。これからも仲 らこそできる役割がある ケアも大切です。私達だか 体のケアだけでなく、心の が安楽に過ごすためには とを実感しました。仲間 をする役割を担っているこ 医療者と本人との橋渡し そういった際に私たちが からないことが多くあり 療者でも本人について分 た、仲間の治療にあたる医 うことを学びました。ま 弁できるかが大切だとい 今回のケースで鷲見さん きたいです。

第二いぶき こらぼ金

仲間のすがた

パストラルいぶき

藤澤亮太

場を設けていました。こ ラルの職員と話し合いの 今自分に何ができるかを す。金森さんは特に入退院 増えてきたように感じま 昨年度は鷲見さんにとつ の職員は同じ場面を共有 らぼの職員とパストラル い変化も見逃さずパスト した。また、どんなに細か 第一に考え支援していま を繰り返し不安感や恐怖 で穏やかに過ごすことが た。しかし、こらぼの職員 しずらさが感じられまし 不安も強く、生活全般の いたことが出来なくなり と思います。今まで出来て て、変化の多い一年だった 心の強い鷲見さんに対し、 に寄り添い、向き合うこと を中心に鷲見さんの不安

> 鷲見さんの生活をまるご することは困難ですが ですが、視線を送ったり、 りを求めることは少ない しています。自分から関わ 暮らしている仲間を意識 多いのですが、常に一緒に でゆっくり過ごすことが ラルの生活では、ソファー 間を好む仲間です。パスト ます。鷲見さんは一人の時 だけではないと思ってい れは体が楽になった、職員 ることができました。そ 徐々にではありますが戻 顔も増え、以前の生活に 視点から鷲見さんの心身 と捉えるという意味で貴 に対し安心感を得たから についてアドバイスをい た。その他にもいろいろな ただき支援することで笑 な時間だと感じまし

ばと思います。 ういう生活をしたい」と 間に支えられながら「こ ます。ですが、職員や仲 す。今まで以上に身体的 れから高齢期を迎えま 考えます。鷲見さんはこ り一層必要ではないかと 切にすることが今後よ を意識して繋がりを大 だけではなく他の仲間 動や仕事を通じて、職員 す。こらぼでも色々な活 す。しかし、生活の幅が 辛い経験だったと思いま による入退院や手術は さんにとって今回の転倒 思いました。確かに鷲見 できたのではないかと 自分の居場所を再確 所を見失っていた中で、 いう思いを実現できれ な機能低下が予想され 広がったと感じていま

り返すことで自分の居場

ほころびます。入退院を繰ないですが頷いて表情が

声をかけられると言葉は

座談会

※今回は4回シリーズの2回目です。

福祉

加藤・(ゆめくるん工房職員 勤務年数4年)

出席者 池田・(いぶき施設長 勤務年数7年8カ月) ・・(第二いぶき施設長

浅野・(第二いぶき職員 勤務年数6年 小笠原:(いぶき職員 勤務年数3年) 竹内:(司会:理事) 勤務年数18年)

〈前回からの続き〉

も・・・。卒業した後はずっと 小笠原さんが担当していま かみにくかったんだけど なかなかパニックの原因がつ あったね、と言う感じでし デイサービスの頃からいぶき 池田:Nさんはね、放課後等 た。ただ、当時は学校が終わ ニックはあって、また今日も に来ていて、その頃からもパ ってからここに来ていたので、

ているかなとは思います。 小笠原:ずっと以前から持っ

れているよね。まさに積み重 も考えながら色々考えてく 池田:原因というか、その辺 とかしていましたね。行き当 小笠原:はい、積み重ねで何 ねで対処してきたよね。

> 違った、っていう感じでしたけ なんてやってみては、違った よう、あそこに行ってみよう、 たりばったりで、ここ行ってみ

結局はあるのだけど、それと 矛盾があったようにも思いま を本人が嫌だという気持ちの はあるんですけど、それ自体 たし、本人の求めいていること 小笠原: すれ違いもありまし のすれ違いだった? 森:本人が求めていることが、

森:本人の中の葛藤みたい

束することもあるんですけど お母さんに許可をもらって拘 ニックを止めるという支援で、 かね。一つ例をあげるなら、パ 小笠原:本人の葛藤なんです

河波・(第二いぶき職員 勤務年数2年6カ月) と思います。気づくのが た本人の中の矛盾があった すると、またパニックが激し と思う。でも止められるのは ちょっと遅れましたけど。 くなるのですけど。そうし 嫌。だから止められようと てもらう、ということがある 来るからパニックして止め めてもらえると人が近くに 他に無くて、とりあえず止 いるもの、要求の方法とかが

構長く続いたと思います んですけど。その矛盾が結 うじゃないかな」というふう の意見を聞きたりして、「そ くのが遅れたということ? に見つけながらやってきた 森:それは、自分たちが気づ 小笠原:リーダーの経験者

態というのは今もあるわけ 竹内:その矛盾している状

るよ」、という状態を2年目 めないよ。だけど近くにはい 止められるのが嫌なら、止 すけど、今は「パニックの時、 小笠原:今もあると思いま

森:親さんと話をしている

ちゃうからね。 ぱり止めた人に怒りがいっ の中旬か下旬あたりにやった たしね。それを止めると、やっ 森:そう、結構自傷が激しかっ た怪我もしましたけど。 んですよ。その間にちょっとし

ど、自分の隣に人が来てほ

しい、しれでも本人が持って

て止められるのは嫌だけ ないように。本人は拘束し も・・・。ちゃんと虐待になら

とだと思うのですけど。少し る状態だと思う。矛盾した状 うことかな。 けでしないような感じ、とい 近くには居るけど、拘束しか 状態をちょっと運動させるこ を動かすと言うか、そういう 態でぶつかりあって、その矛盾 けど、それは矛盾を運動させ 竹内:少し小難しい言い方だ

のかなとは思っていると思い に来たから本人は拘束される 小笠原:そんな感じです。近く

ど、いぶきで職員が専門性を というようなことに話しを 色んなことが、かなり専門的 かなり発揮すると、親が気付 ら、子どものことを良く知って 親の方が長く生活しているか もっていきたいのだけど・・・。 36歳です。そこで親との関係 実は、いぶきに通っている竹内 にやられていますよね。僕も 竹内:いぶきの中でそういう いると思うかもしれないけ 藍の父親で、彼女はもうすぐ

ど、そういう経験ないかな? 親に君らが教えることもあ かないことを職員が判って、 あって当然だと思うのだけ ると思う。そういうことは、 君らが親から色んな情報

らうことはあると思うけど、 逆に職員が親に教える、教育 いますが・・・。 な要素だと僕はずつと思って するということも、結構重要 を聞いていて、親に教えても

とか動きがなかなか出せな 状態でした、というふうなお 今日は一日よく目が開いてい 悪くされる仲間も多いので、 をしたとか、何を良く見てい 中で一日、表情とかを見てい い方が多いのですけど、その ることも多いし、やりとりす ミュニケーションの中で伝え いけど、何か親さんとのコ かまでは難しいかもしれな 仲間が多いから、教育すると 森:河波さんとこは、重心の 伝えもよくしますね。 て、仕事も活動も覚醒が高い によく話しますね。体調を たとかそういう事は親さん て、今日はどういう目の動き 心ということもあって、表情 ることも多いんじゃない? 河波:そうですね、仲間が重

森:家でしないんだ?

重心のみんなの表情とかはす重心のみんなの表情とかはすする場にしたかった事を共有する場にしたいと思っていますが、親御さんも、そういうのをすごく欲しているようにも思うね。だから、お迎えのときなんかいぶきに居られるのがすごく長いもんね。

河波:そうですね。例えば紙 対きの仕事をしている場面 は、なかなか親さんも見られ は、なかなか親さんも見られ る機会が無いので、そういう ですが、手が動かせ で物を引っ張る動き、そうい うことが今日は調子よく出 みったといった普段では見られ れない場面は、出来るだけ イない場面は、出来るだけ イない場面は、出来るには がったといった普段では見られるい場面は、出来るだけではえられるようには

験はないですか? 竹内:ほかの人で、そういう経

浅野:仲間にも仕事の顔と家の顔があって、特にBさんは家では果物とかジャムを一切食べない。口にしなくて、お母食べない。口にしなくて、お母食べない。ですけど、いぶきでは出来あがったジャムをちゃんと来あがったジャムをちゃんと、中見して、ちゃんと「おいしと言うんですよ。

村に 浅野:はい、果物もちゃんといぶけに 浅野:さい、それはすごいね。 大内:へー、それはすごいね。 大内:では食べるのに・・・。 だか 白いし重要なことだと思うね。 白いし重要なことだと思うね。 か 白いし重要なことだと思うね。 か かんな食べているし食べなきゃいが、 みんな食べているし食べなきゃいがけない、というのもあるのだといいが

浅野:そうですね。特にBさ

んは、お休みの時は一切家を

ちょっとしんどそうな顔をして と立ち仕事なので、本人も う、みんなそういう意識が高い と仕事は仕事で頑張ろうとい みんな食べているし食べなきゃ ちでは全然やらないのに」とか、 は仕事モードでやっています。 する?」って言っても、「いや、最 ど、洗い物を担当するなど、ずつ 疲れやすいタイプなんですけ なと思います。Tさんは、結構 らしっかりやっています。ちゃん のですけど、こっちは仕事だか 洗いものとか家では一切しない に伝えると、「え?そうなの?う 感じで、そういうことを親さん ぶきでしか見えない顔みたいな 何かそういうところが、このい 後までやる」と言って、仕事の時 いるのですけど、「ちょっと休憩 思うのですけど。あと、Bさん、 いけない、というのもあるのだと 浅野:多分、ここは仕事だから、 白いし重要なことだと思うね。

るということだね。
池田:家と職場で使い分けてい

から、あまりにも割り切りす

しょう。コミュニケーションだてしまうと感情が伴わないで仕事は仕事で割り切ってやっないとは思います。でも逆に、て、それはやはりあまり良く感情から離れ過ぎてしまっ

そういう感じのことはよくあり

とがあるようです。Mさん も、いぶきでは外出を凄く お花見の季節でお母さん 出ないらしいんです。 ているのは、嬉しいなと思い 行きたい思いを持ってくれ 感じで、やっぱり、いぶきに も「行きたい」とか。そういう たい」みたいな感じになるこ んに言われた朝には、「行き 行かなくてもいいわ」と親さ ね。Tさんは「いぶき、今日 しそうに出掛けて行きます 楽しみにしていて、本当に嬉 ようとしないそうです。で い」みたいな感じで、家を出 ても、「窓から見えるからい が、「桜咲いているよ」と言っ

ね。森:行けずに怒っているもん

> ると職員の人が履かせてくれ 感情というか(何が本来か難 化しちゃうと、自分の本来の く入りすぎるというか、一体 分で履くと言うのは結構重 あいう子からしたら、靴を自 ょっと何か、進展させられない 障害をもっていても、そういう うけど・・・。相当重度の知的 それはそれでいい事かなと思 ている。家だと僕が怖いから て、どうも本人はそれを待っ ると思うので、あまりにも深 については色々考えられてい 寄り添うときに、寄り添い方 として普通の言い方で仲間に いうか、感情というか・・。職員 小笠原さんが言った距離感と きないかな、とは思いますね。 大きな成長に繋げることはで 要なことなので、もうちょっと 履くことだけど、それでもあ か、とも思います。たかが靴を ことは分かる。そこをもうち ふうに使い分けているのも、 「しかたなく履く」。そういう いのだけれども)、そうした

ぎると、それこそ伝えたいことも伝わらないこともあるでしょ。この辺、僕は本当にでしょ。この辺、僕は本当にでしょ。この辺、世はないに思います。逆にその辺、皆なんにもう一度伺いたいけど。何か誰にでもできるみたいに思われていない問題があるよういに思います。逆にその辺、皆さんにもう一度伺いたいけど。何か誰にでもできるみたいに思われているところがいに思われているところが、そこは大いに反論しているとしい。

って場面が切り替えられた 時はパニックがすごかったで 本当に大変でしょう?。もち そうした中での寄り添いは 何時もドキドキしてとか、 クになるかもしれないから、 よ。ずっと一緒で、いつパニッ 凄く大変だと思うんです んですけど。小笠原さんは、 その後はすぐに事務室に戻 てパニックだけに対応して、 から、凄く大変な時だけ入っ はスポットでしか入らない もダメージが大きくてね。僕 ど、「負」のときは結構こっち 寄り添い易くて良いのだけ 向、良い方向の時は感情に しょう。それで皆、「正」の方 森:Nさんが最初入って来た

ろん、そんな中で寄り添って すごく興味があるんだけど。 ロールもできるようになって、 っていたのかな?というのは ど。どういうふうに自分を保 今の支援を落ち着いて出来る これたから、感情のコントー 小笠原:距離感みたいなので ようになったとは思うのだけ

かったと思っています。 時です。自分が依存の対象に 問題は最初の一年目は大き なってしまっていて・・・、その は、距離感が近くなりすぎた 最初の頃、Nさんの支援で 「やってしまった」と思ったの

たら、Nさんは駄目やったも 池田:小笠原君が居なくなっ

の時は一緒にいるし、ならない ないとか、外に行っても僕が り添い過ぎてしまったんです なくて、とりあえず、パニック さんの代わりは僕、という位 ない、僕が居ないと何もでき くと、この人のためにはなら を見て考え始め、このままい よ。そんな中で、ちょうど記録 ように一緒にいる、といって寄 僕もちょっと距離感が分から 寄り添い過ぎて。1年目は、 置までいっちゃったんですよ。 小笠原:そう、いぶきでのお母

> らやっているのですけど、で らするとちゃんと考えなが なってしまいました。それで に居たのに急に離れて行って も、Nさん本人からすると急 えようということになって、一 居ないと不安が凄く大きく てしまいました。 に近くに居る形に自然に戻っ ではないですけど、再度、常 結局は、元の依存と全く同じ て、更にパニックが大きく に僕が離れると、今まで近く 度離れはじめたんです。僕か よう、今度は支援の仕方を変 てしまうのはマズイから離れ 話した時に、依存になりすぎ のことについてリーダー達と ついて、かなり考えました。こ に繋がらないといったことに なってしまうとか、他の行動 「何でだ」ということになっ

ということをやり始めたんで みよう、言葉で伝えてみよう のままの支援を続けながら もできました。それで一日、そ ている人だと、判断すること 年目の一緒のやりとりから彼 う仕方ない、いいんじゃない らも、依存し続けるのならも どうしたもんかと思いなが も、離れる時には説明をして は、僕の言葉は割と理解出来 かとも思いかけましたが、1

> のを考えて支援していったの らいからパニックの時間を計 ど、長くなった感じがしまし とかそんなレベルなんですけ の時の本人の体調や家であっ す。言葉で伝え始めたら、そ 付き合っていこうかなという かけをして、この人と自分は するというか、どういう言葉 るようにもして、時間を模索 た。そして、そのちょっと前く 我慢できる時間が、1分2分 たことにもよるんですけど

どん時間が伸びていきまし 憩に行くために3階に上が ど、それがとりあえずは、休 見えなくなった瞬間に、パ 初は、僕が部屋から出て姿が 分かってきたみたいです。最 うちに、だんだん多分Nさん になったのかなと思っていて て、そこで依存とは違う関係 ことができるようになってき あがっていくと納得して待つ た。今だと説明をして、上に るまでは「もった」とか、どん れだけ抜けるなというのが の方も、この時間にこの人こ ニックになっていたんですけ

だね、すごいね。 森:すごい冷静に見ているん

ちょっとは大丈夫かなという

つ、例えば僕が休憩中の居な 何ヶ月かかけてやってみて、 さんが入るという経験を をしているうちに他のパート 続いたんですけど、僕と仕事 僕が呼ばれるということが たようで、パニックにもなり されている感で嫌だなと思っ のうちはやっぱり仕事をやら なことにもなりました。最初 小笠原:そのうちに少しず そこで少し分かってきたみた い時にも、少しずつですが本 **八が仕事に入るというよう**

そうした状態が続いていく さんだけの関係じゃなくて、 あこの人が横に居るから り距離をとって離れても、ま れてきたみたいで、僕がかな それで本人は見通しが持て 係ができてきたみたいです。 もう一人のパートさんとの関 たみたいで、そこで自分とN 年目でようやく本人が思っ 時に、意図的に一番経験の長 言えないですけど、不安は薄 て不安も無くなったとまでは に仕事してもいいかなと、3 けど、その人にだったら一緒 緒に居てもらっていたんです い人に頼んで僕が居る時に トさん達を2年目くらいの いです。パニックのため、Nさ んとの距離が離れていたパー

ふうに変わってきたのです。 違うよね。 で広がっていくと、ずいぶん 池田:関わりがそういう感じ

小笠原:そうですね。全然違

は伝えた?いぶきで変わって きていることを親に説明し 竹内:今のような過程は親 いますね。

うだったけど、これだけ変 と習慣化しないので、「すみ うか、という時間も増やした とは歩ける人だったので、歩 う声かけをした後に、もとも ですけど、いぶきに慣れた とやりとりしてきて、最初こ の伝え方をしてますね。今ま とやりとりも多くなってきま こんな感じです」って、親さん んです。いぶきでやるだけだ けるんだから一緒にあるこ し、僕にも慣れたでしょ、とい 最初は車椅子に乗っていたの 幾つかあります。Nさんは、 わったというのは、やっぱり での経験では、親御さんたち していますけど、という感じ した。僕たちはこういう風に ました。そうすると、「家では ますよ」と言ったりはしてき が、その都度「ここ変わってい 伝えたわけではありません 小笠原:全部のことを一気に 池田:彼については、すごく 見られるようです。それはと 立ったりする、という変化も りて10分くらいは歩いたり、 行くのですけど、そこから降 くにショッピングセンターが もいいので、家でもちょっと ません、お父さんが居る時で ても嬉しいことでした。 自分から歩きたいと言って、 あって、そこまでは車椅子で なった訳です。家でも、家の近 なんですけど、歩けるように 歩きます。決まった人が必要 となら 30~ 40分なら普通に てやっていったら、今では、僕 やってください」とお願いし

靴を何とか履かせようとし 靴も履けなくて、その時の のが感覚的に嫌いで、最初は 小笠原:Nさんは、靴下履く リーダーと話しあった上で、

印象的な靴下の話しもある

慣れてきました。 り添いで、何とか何とか一緒 じゃう。それも言葉掛けと寄 うしても履けなくて、脱い も、いぶきに来ると靴下がど けるようになったんです。で に履き履きしているうちに ました。靴はわりと早めに履

森:靴下って、いきなり履か せてしまう、というじゃなく

もらうのをずっとやっていた

池田:家でも履けていなかっ て段階を追っていたんだ。 笠原:段階追ってますね。

なったんです。家の人にも、こ

ら、自分で引っ張るように

いていなかったんじゃないか な?やつぱり落ち着くと脱い 小笠原:そう。家でも今は履

と言って写真撮っていたもん お母さんが「うわ、すごい!」 池田:履いて帰った時に、確か

ていましたからね。 小笠原:まず、靴で写真撮っ

森:そうだったね、

もらうようになりました。最 て、手を持ちながら引っ張て やって引っ張るんだよと言っ いこうかとなって、靴下、こう いないと言っていたし・・・。 と思うんです。家でもやって いから、分かんなかったんだ 初は多分教えてもらっていな 後、引っ張るというのをNさ 靴下をはめてあげて、その かなか難しいので、僕たちが が・・・。つまりはめることがな じゃあまずやり方から教えて じゃないかなと思って、やって んの能力だったら出来るん 半分は僕が履かせてます 順追ってなっていって、今だと 笠原:靴下が履けるように

> ますし、靴も家だと「履かせ たから、靴も履けますよ」、と なくて、この人なら靴下いけ が、「お母さん、履かせてじゃ 履かせれば、両足自分で履き うやってやっているんです、っ お話したりしました。 て」と言う感じだったんです 言いました。今だと靴下半分 て言いながら支援してますと

ら辺はね。 森:分かっているからね。そこ

竹内:家でもそうやっている

ようです。 たいで、あんまりやっていない が、でも家だと甘えちゃうみ うかな、と思っていたのです 小笠原:家でもやってもらお

き言ったように、靴だけは、で とが多かったです。けれどさっ し、面倒くさいとか、履かせた ちらは、特に朝などは忙しい た。さっきの小笠原さんの話 は履かせようとしていまし とんど同じ感じです。一時期 竹内:僕の娘もその靴下、ほ 局、家では履かせてしまうこ 方が簡単じゃない。だから、結 だけ、といった形でね。でも、こ てやると、こうやって引っ張る と同じで、ちょっとここに被せ

ど・・・。今は被せるとこはやっ きりです。 うも毎日の生活では駄目だっ えたらかなり手間ひまという はいます。そういうことを考 なんかも自分で被れるんだけ 使えば、本当は靴下もシャツ きました。ちょっとずつ時間 う感じでもう何十年もやって きるだけ自分で履いて、とい なきゃいけないんだけど、ど か、我慢して時間かけてやら で、という感じにはなってきて てあげると、あとは本人の手 たなぁ、と親としては反省し

森:親の反省?。

もらうと、そういうのを施設 竹内:もうちょっと言わせて くありますね。 池田:そうね、親の反省はよ で、どんどん課題としてやっ

うちの妹のことではやってい ありました、みたいな事書い ど、学校でこういうふうな事 らった方がいい親も居ると思 もよるだろうけど、言っても 小笠原:ありますね。それは、 てくださいと言うの家でも試 て来て、是非家でもやってみ 池田:うちとかもそうだけ うんだけどね。 ください、というふうに、親に してみる事あるからね。 てもらって、親もこれでやって

ますね。ただ、ノートには書 ますね。 といったやりとりでやってい あじゃあ、歩くだけですね ないわ」と言われたら、「ま かずに直接話した時に「こ 森:そうだね、やっているも すか?」とか・・・。「それ時間 んなこと出来たのでどうで んね。しないとね。

とだけど、きちんと記録し ておいてさ、残しておいた こと、さっきも言った同じこ

竹内:小笠原さんが喋った

そういうことも忘れてしま うからね。 池田:記録しておかないと、

うにするといいと思う。 の人にも積極的に伝えるよ けではなくて、いぶき以外 ね。あるいはその他の研修 会とかでも、聞きに行くだ 践報告会時にも使うとか 竹内:それを年に1回の実 小笠原:そうですね。積極

的に外に発信するようには したいと思います。



平成28年度決算報告

貸借対照表(平成29年3月31日現在)

社会福祉法人いぶき福祉会 (単位:円)

勘定科目		借方	勘定科目	貸方
流動資産		189,324,276	流動負債	19,219,180
	普通預金	72,089,575	事業未払金	11,185,921
	現金	223,436	職員預り金	4,217,259
	事業未収金	107,424,105	1年以内返済予定設備資金借入金	3,816,000
	商品・製品	5,605,390	固定負債	56,719,119
	仕掛品	259,500	設備資金借入金	30,846,000
	原材料	1,964,066	退職給付引当金	25,873,119
	前払金	1,758,204	負債の部合計	75,938,299
固定資産		660,353,837	基本金	182,345,144
	基本財産	428,146,249	国庫補助金等特別積立金	249,321,275
	その他の固定資産	232,207,588	その他の積立金	138,960,056
			次期繰越活動収支差額	203,113,339
			純資産の部合計	773,739,814
資産の部合計		849,678,113	負債及び純資産の部合計	849,678,113

資金収支計算書(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

勘定科目		決算額
	事業活動収入計	617,596,645
事業活動収支	事業活動支出計	591,856,454
	事業活動資金収支差額	25,740,191
	施設整備等収入計	11,655,205
施設整備等収支	施設整備等支出計	13,018,841
	施設整備等資金収支差額	-1,363,636
	その他の活動収入計	32,318,290
その他の活動収支	その他の活動支出計	50,490,546
	その他の活動資金収支差額	-18,172,256
当期資金収支差額台	6,204,299	

前期末支払資金残高	159,887,841
当期末支払資金残高	166,092,140

事業活動計算書(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

	決算額		
	サービス活動収益計	607,025,497	
サービス活動 増減の部	サービス活動費用計	611,042,156	
2日 // 火マノロウ	サービス活動増減差額	-4,016,659	
ユー バライチム	サービス活動外収益計	10,601,148	
│ サービス活動外 │ 増減の部	サービス活動外費用計	903,334	
- 1//X- > II-	サービス活動外増減差額	9,697,814	
	経常増減差額		
	特別収益計	42,789,211	
特別増減の部	特別費用計	31,029,350	
	特別増減差額	11,759,861	
	17,441,016		
	前期繰越活動増減差額	200,135,549	
操越活動増減	当期末繰越活動増減差額	217,576,565	
差額の部	その他の積立金取崩額	2,000,000	
	その他の積立金積立額	16,463,226	
	次期繰越活動増減差額	203,113,339	

こまないよう心掛けていき 身につけ悩みや不安を溜め 理を徹底し、ストレス耐性を

の福祉職員キャリアパス対応障害研修課程 新人職員研修として、岐阜県社会福祉協議会主催 者コース)に6月の2日間受講しました。 (初任



いぶき きざはし 水野 佳

典

ることがありました。しかし、 漠然と仕事をし一日を終え ことは、自己イメージを明確 援していきます。また自己管 ることは何かを明確にイメ たいことは何か、自分にでき 標ができました。自分がやり 今回の研修の中でそれらの けることの三点です。私自身、 と、信頼関係を強めるコミュ こと、ストレス耐性を養うこ 過ごすことができるよう支 大切さに気付き、新たな目 にし自分の言動を振り返る ージし、仲間が健康で安全に ニケーションスキルを身に付 私がこの研修で学習した

> な人生をサポートしていこ うと思います。 増やしていき、仲間の豊か して仲間のこの仕事の、この チームの職員、仲間たちと 加えて「確認」を常に意識し、 面白いという思いをもっと 活動のここが楽しい、ここが ます。そして「報、連、相」に 積極的にコミュニケーショ ンをとっていきたいです。そ

第二いぶき こらぼ 松尾 有紗

研修を通して福祉職員と 見を進んで発言し主張する 加型研修で演習の時間がた また、この初任者研修は参 気付き学ぶことができた。 やチームワークの大切さに くさんあったため自分の意 して心がけていきたいこと 私はこの二日間の初任者

> 践していく中でよりよい自 啓発を持ち、日々支援を実 ことで時間の意識をする能 が出ると思うが私は常に学 施設になると思う。私は、笑 笑顔が広がると仲間にとつ とで仲間に安心感を与え良 るもの。私が笑顔で接するこ がけていきたいと思ったこと た。私が福祉職員として心 時間内で業務をやり遂げる ける傾聴能力、決められた び続ける姿勢を心がけ自己 い。また、働き続けると慣れ 支援ができるよう頑張りた 関わって仲間にとって最善の 顔を武器に仲間とたくさん ても職員にとっても楽しい い信頼関係の構築ができ 顔は人を元気に場を和ませ 発を持ち続けることだ。笑 は、笑顔でいることと自己啓 力を身につけることができ 合いで仲間の話しに耳を傾 積極性、グループ内での話し 分に成長していきたい。

かな 森本

した。研修は1グループ6 初任者研修に行ってきま

結衣 関わっていきたいです。 ョン能力を高め、多くの方と サービスはどんなに優れた り、職種は異なっていても相 関わる職業であることから 野での出来事や不安・喜び ている方もみえ、様々な分 分かれて行われました。グ ~7名で10グループ以上に で、これからコミュニケーシ うまく出来ない時も多いの 身の考えを言葉にする事が 多くの人が関わっています。 では様々なサービスがあり ない」という一文です。福祉 中で心に残ったことは「福祉 じました。また、テキストの え合えることが大切だと感 手の思いと自身の思いが伝 同じような不安を抱えてお 付く事がありました。人と ような出来事があったと気 持っており、思い返すと同じ た。どの方も自身の考えを などを聞くことができまし など異なる分野で活躍され 務業務を主に行っている方 の施設で働いている方や事 ループメンバーには、高齢者 ニケーションは基本です。自 人との関わりの中でコミュ 人でも一人で自己完結でき

こらぼ 第二いぶき

学び、相手の後ろから話し をしていきたいと思います。 りとし、より良い部屋づくり 係を深めていきたいと思い ニケーションを取り信頼関 話しやすい位置でのコミュ 間にとって一番聞きやすい・ うことが分かりました。いぶ め45度からの話しかけとい 思うように話せなくなって かけられると恐怖に感じら やすい・伝わりやすいなどを の角度で話すと相手と話し をするなかでどの位置でど という分野です。人と会話 じられたのが「対人関係とマ ましたが、これから働いてい ました。また、職員同士の きでも仲間と関わる際、仲 しやすい位置関係は前方斜 しまいます。そのため一番話 ますが緊張が入ってしまい れ、正面からは冷静に話せ ナーとコミュニケーション_ くなかで大切な事を学びま した。私が一番大切だと感 「ホウ・レン・ソウ」をしっか 様々な分野に分かれてい

哀悼と感謝の思いを込めて

5月18日の朝8時34分、サテライトいぶきの仲間、 板下友子さんが永眠されました。 5月15日に53歳になられたばか りでした。14日のいぶきまつりでは、みんなと一緒に笑顔で過ごし、次の日の誕生日はご自宅でお祝いされて、ご機嫌 で過ごされたと聞いています。お葬式の時、お化粧したお顔はとてもかわいらしくて、穏やかで、いつも通り「なぁに?」 って笑いかけてくれそうでした。今まで入院をしたことのなかった友子さん、ご家族が「病院のベッドで長い間苦しませ たくない、できれば自然な形に」とお話しされていた、その通りの最期を迎えることができたのだと思っています。

友子さんに出会ったのは12年近く前になります。それまではご自宅にみえた友子さん、急に集団の中で大丈夫かなと心 配しましたが、持ち前の笑顔とおおらかさですぐにいぶきになじんでいました。お姉さん気質もあって、若い仲間たちを 優しく諭したり、ゆめくるん工房で働く甥の茂樹さんには「しーげ!」と小さな声で注意したり、頼もしいくらいでした。 私たちは友子さんの絵が好きで、しんどい時には友子さんの「なぁに?」「うふふ」の笑顔と、絵で元気づけてもらってい ました。みんなにとってかけがえのない存在でした。友子さん、そして友子さんに出会わせてくださった家族の皆様、本 当にありがとうございました。

お葬式の日はいぶきの開所日でした。お通夜の時、茂樹さんが「友子さん明日いぶき」と声をかけていました。友子さん、 茂樹さんを、みんなを、今まで通り見守っていてください。

いぶき 山中真紀

てやまない。 (人格・規範性・学力)を願っ 分立の一つを担う国会議員 な職種も多くある。ぜひ三権

に選挙に立候補できる要件

様々な職業には資格の必要 の能力に応じた権利である。 権であるが、あくまでも個々

としての、共通資格の導入

編集長 林守男 る、 ことながら最高の倫理性を を定めるという、能力もさる てしまう。 ならないのに・・・。 権利として保障されてい ね備えた人物でなければ 議員とは憲法を守り法 、職業選択の自由・被選挙

きかねない」「撤回させてい 的に許されない行動などが も似た立ち振る舞いや、社会 ただきます」云々で済まされ した輩たちのおごり、児戯に 「不適切な関係」「誤解を招 議員という肩書を勘 違

の代わりに政策提言する能 リプレゼンタティヴ(選挙民 れている。「議員」は英語で、 力のある者)と表される。 した行動・言動が報道 近、 、国会議 常

編 集 後